

令和3年度 小山町立明倫小学校 後期学校評価書

1 学校教育目標・重点目標

【学校教育目標】 「やる気の明倫子」

【重点目標】 「自ら進んで活動できる子」～あいさつ・黙働・言葉づかい～

【目指す子供の姿】 (1)進んで学ぶ子 (2)心をみがく子 (3)体を鍛える子

【目指す学校の姿】「行きたくなる学校 行かせたくなる学校 明倫」

～安全・安心・楽しい学校～

2 重点評価項目と数値目標

重点評価項目	数値目標
(1)進んで学ぶ子（評価項目：授業がわかる子）	95%
(2)心をみがく子（評価項目：学校が楽しい子）	95%
(3)体を鍛える子（評価項目：体力づくりを続ける子）	95%

3 目標達成の状況や達成のための取組み状況、及び改善に向けての具体策

（※数値は、4段階評価の「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の割合の合計）

（※+・-の数値は、第1回と比較しての増減）

(1) 進んで学ぶ子

児童（授業が分かる）	91.9%	+1.7
保護者（学習内容を理解している）	82.6%	+4.3
教職員（基礎・基本を身に付けている）	86.7%	+2.1

確かな学力を身に付け、生き生きと自分の気持ちや考えを表現できる子を育成することを目指してきた。研修では、つながりを意識して考えを深めていく授業により、児童が学習内容を身に付けていくようにと考えて、日々の実践を行った。本校の子供の傾向として、自分の思いや考えを表現することに課題があるので、話す（伝え合う）ことについて、ブロック学年ごとに、系統性を意識しながら目指す児童の具体像を明確にして指導にあたった。また、聞くことにも重点を置き、手立てとして、全員が話し手を見るまで待つことや、内容が聞き取れているか確認することを続けてきた。後期は感染症予防の観点から、ICTを用いて伝え合う活動を取り入れた。ICTについては、授業での活用方法を個々の教員が模索し、情報交換しながら実践したことで、児童が学習内容を理解することに有効な場面があった。児童・教員ともにスキルアップを図ることもできた。今年度は、授業以外でも伝え合うことを行いたいと考えて、朝の活動の時間（10分間）に、週1回、「コミュニケーションタイム」を設けた。タイムリーなテーマ（夏休みの思い出・好きな本の話など）を設定して、1学期は、温かい聴き方を意識して活動した。2学期以降は、感染症対策のため、ペアで話したり質問したりする活動がままならないが、授業中に、自分の考えを安心して話している様子も見られ、この時間が有効に働いたと思われる。

「授業が分かる子」の数値目標には届かなかったが、児童・保護者・教職員のいずれも第1回の肯定的な評価を上回る結果となった。これは、児童にとって分かりやすい授業を行うことはもちろん、授業の中で、折に触れてその時間の学習内容に関わる既習事項の復習を短時間で行ったり、つまずきの見られる児童には、授業中や休み時間に個別に支援したりするなど、日々の実践の積み重ねの結果だと思われる。また、宿題で練習した漢字から、翌日、小テストをするなど、目的意識をもつ

て宿題ができるように工夫し、基礎基本の定着を意識してきたことも効果があった。

来年度に向けて、「基礎基本」の内容は、「漢字・計算」と共通理解した。これらの力があってこそその知識・技能、思考・判断・表現である。また、語彙を増やすことや音読も「表現力の育成」のために大切にしていく。さらに、定着度調査の結果等を見ると、どの学年も計算に課題がある。そこで、特に計算に力を入れたい。全校統一で「〇年生でクリアしたい計算」のようなプリントを用意し、授業の少し残った時間や自主学習に活用したり、個に応じて、前の学年のものを解いてみたりすることも考えている。

(2) 心をみがく子

児童（楽しく学校に通っている）	92.8%	+6.9
保護者（楽しく学校に通っている）	96.3%	+4.0
教職員（楽しそうに学校に通っている）	100%	±0

体験活動や縦割り班活動等を通して、豊かな心・豊かな人間性・人を思いやる心・人の心の痛みがわかる子を育成することを目指しているが、現状は、感染症対策のため、体験活動や縦割り班活動は実施を見合わせるが多かった。そんな中でも、後期は、明倫まつりや修学旅行、委員会が中心となって行う活動（感謝の会）など、児童がコロナ禍でもできることを考え、目当てをもって活動することのできる行事があり、学校生活が充実していたことが「楽しい」につながったのだと思われる。来年度も、行事や日々の学級での生活で、この状況下でできる持ち方や児童相互の関わり方を、児童と共に考えていく。

本校では、「あいさつ・黙働・言葉づかい」を合言葉にして、3年目となった。

①あいさつ

児童（友達や家族、地域の人にあいさつをしている）	94.6%	-1.0
保護者（学校だけでなく家庭や地域でもあいさつをしている）	86.3%	+2.3
教職員（場に応じたあいさつができています）	82.4%	+22.4

まずは大人が手本を示すことを続けながら、場に応じたあいさつができるよう、折に触れて指導をしてきた。登校時に昇降口で検温をしながら教員があいさつすることで、児童も自然にあいさつを返すようになり、目を合わせたり、頭を下げたりすることのできる児童も増えた。また、毎月の生活目標のあいさつの項目について、集会等で生徒指導主任が話す機会を設け、目指す姿を明確に示すようにした。さらに、児童会であいさつ運動に取り組んだことも、全校の児童の意識を高めることにつながった。来年度も生徒指導と児童会活動がタイアップして推進していきたい。

②黙働

児童（掃除は、黙って集中して取り組んでいる）	80.3%	-2.0
保護者（手伝いなどの作業を集中して行うことができる）	78.3%	-0.3
教職員（黙働ができています）	68.8%	+2.1

清掃時や給食の準備、集会等で全校が集まるとき、教室移動など、けじめをつけて静かにすることが苦手な実態があったので、合言葉の一つとなった。感染症予防の意味も含めて、上記のようなときは黙って集中して行動することを指導してきたところ、集会等全校が集まるときには黙っていることができるようになった。

課題となっているのは清掃時である。後期は、掃除中は校内に静かな音楽を流し、その音楽が鳴っている間は掃除の時間であることをはっきり分かるようにし、時間

いっぱいまで集中して掃除をすることを全学級で指導したところ、徐々に改善が見られている。また、教員の目が無い場所では私語が目立ったり掃除がおろそかになったりしている実態があったので、児童と黙働について話し合い、ただ黙っていればよいのではなく、集中してきれいに掃除をするために私語を慎むのだということを理解して取り組むことができるようにした。2月から、児童の清掃の様子を見届けることができるよう、級外も含めた教員の分担を決めて指導にあたるようにしている。やるべきことは黙って集中して行う姿勢が身に付くよう、来年度も折に触れて指導していく。

③言葉づかい

児童（場に応じた言葉づかいをしている）	84.8%	-7.3
保護者（場に応じた言葉づかいができる）	76.2%	+2.6
教職員（場に応じた言葉づかいができています）	64.7%	+11.3

本校の児童は人懐っこく、教職員にも話し掛けて関わりを楽しんでいるが、大人に対しても友達と同じような言葉づかいで話すことが多く、けじめがつかない場面がある。また、用事で職員室に来たときに、適切な言葉で要件を伝えることができない児童も多い。教職員は、日頃から、気付いた人がその場で指導することを共通理解していて、場に応じた言葉づかいを意識する児童が増えてきた。学級では日常的にできることとして、児童相互でプリント等を手渡しするときに「どうぞ。」「ありがとうございます。」と言葉を交わすことを徹底してきた。これらの結果、教職員が肯定的な評価が増えることにつながったと考えられる。しかし、その数値は高いとは言えないので、来年度も、教師自身が言葉を大切にしつつ、「場に応じた言葉づかい」がどのようなものなのか、具体的に示しながら指導していく。

(3) 体を鍛える子

児童（進んで運動したり、外で遊んだりしている）	77.7%	-4.6
保護者（進んで運動に取り組んでいる）	78.0%	-1.8
教職員（進んで運動したり、休み時間に体を動かしたりしている）	76.5%	-10.2

たくましい体力と精神力、我慢強さ、健康づくりのために、具体的に目当てを持って生活する子を育てることを目指してきた。2学期には、持久走大会に向けて、自分の目当てに向かって、継続的に努力する児童も見られた。一昨年度まで行っていた朝の自主トレの時間がとれなくなり、児童が学校で継続的に運動を続けることが難しくなった。休み時間を楽しみにして、外に飛び出して遊ぶ児童も一定数あるが、室内で過ごすことを好む児童も少なくなく、個人差が大きい。後期は外遊びを推進しようと、体育委員会の児童が外で遊ぶように校内放送で呼びかけを行った。現在、進んで体を動かすのは体育の授業と休み時間しかないもので、いかに外で遊ばせるか、体育で運動量を確保するかが、引き続き課題である。

本校では、「メディアを適切に活用できる力を身に付けること」、「メディアから離れた時間を、家族や友達とのコミュニケーションの時間、好きなことや得意なことを伸ばす時間に変え、人の温かさや愛情を感じながら、自己肯定感、コミュニケーション能力を高めること」を目的として、メディアコントロールを推進している。

児童（テレビ・ゲーム・パソコンについて約束を決め、実行している）	79.4%	-4.6
保護者（メディアとの関わり方の約束を決め、実行している）	76.2%	-5.0
教職員（子どもは、メディアコントロールを意識している）	76.9%	-6.4

小山中のテスト期間に合わせて、1週間のメディアコントロール週間を年間5回設けた。今年度は、「メディアに触れる代わりに、得意なこと、好きなことで、明倫小で1番を目指してみませんか？」と「明倫ギネス記録」への参加を呼び掛けたところ、多くの児童が楽しんで参加し、第1回の学校評価アンケートでは肯定的な評価の割合が多かった。第2回では、肯定的な評価の数値が下がる結果となったが、昨年度末と比較すると、保護者の評価が肯定的なものになってきている。メディアは、日常生活に欠かせないものとなっているが、使い方によっては心と体の健康に悪影響があることも事実なので、児童の心と体の健康を守るために、今後も家族そろっての取組を呼びかけていく。

(4) 信頼できる先生がいる

児童（先生や職員はみんなのことを考えてくれている）	98.2%	-0.9
保護者（明倫小は、信頼できる教育活動を推進している）	97.3%	+0.1
教職員（信頼できる教育活動の推進に努めている）	100%	±0

本校が目指す学校の姿にある「安全・安心」が信頼につながるものと考え、次の2つの評価項目を設定した。

児童（先生は、自分の話を聞いてくれる）	97.3%	+0.9
保護者（先生は、子どもたちの話を親身になって聞いている）	92.7%	-2.6
教職員（子どもたちの話を親身になって聞いている）	94.2%	-5.8

児童も保護者も高い評価ではあるが、100%を目指していきたい項目である。

児童（先生は、みんなが仲よくできるように声を掛けたり注意したりしている）	99.1%	+1.8
保護者（明倫小は、いじめのない学校づくりを進めている）	88.1%	-6.1
教職員（学校体制でいじめ防止に努めている）	100%	±0

学校で子供同士のトラブルがあったときは、担任は適切に対処し、子供同士は納得している。保護者にも連絡し、理解を得ているが、この項目については、昨年度からアンケートのたびに保護者の肯定的な評価が少しずつ減っていることから、表面化していない心配を抱えている保護者がいる可能性がある。

現在、本校においては、はっきりとしたいじめの実態は認められないが、いじめの芽となりそうな表れの報告は挙がっている。いじめを起こさない、起きそうな芽を早い段階で摘み取る「早期発見・早期解決」を意識し、保護者と連絡を取り合いながら対応していきたい。